世田谷村日記

石山修武

二〇〇〇年一二月六日

朝六時三〇分世田谷をでて「ますイイ工務店社屋」現場へ。土屋、檜垣二名が現場に寝泊まりして最後の仕上げをしている。幾つか指示をして十時過ぎには再び地下室に戻る。来年一月からの「室内」新連載原稿にとりかかる。トヨタ自動車ＷｉＬＬ　Ｖｉ批判を書くうちに、我ながら面白くなってしまい色々と横径にそれた本に手をのばしてしまう。書き上げて、編集部にＦＡＸして意見を求める。自分で調べなければならぬ事が多くなりそうだが、この連載は面白くなりそうだ。

夜、ヘレンケラー記念塔の打合わせ。実際に現場が始まっている建築の打合わせにはエネルギーが要る。抽象的な議論だけではすまされぬ具体的なアイデアが要求されるからだ。それぞれのスタッフの力量が赤裸々になる時でもある。二五才も年の開きがあるスタッフと私では経験力量共に距離があり過ぎて議論にもならないが、それでも時にオヤと思わせるアイデアも出てきて、そんな時は面白くてワクワクする事がある。ギリシャからきているクリストモスはある種の詩を内部に持っているようで楽しみだ。支援センター注文してくれた人達への礼状を書く。一人一人とダイレクトに交信するだいごみがある。何人まで直接お付き合いできるのか、はなはだ心許ないけれど、やれるところまでやってみるつもりだ。

夜半、佐藤健よりＴＥＬあり。病気の友人に差上げた絵が大変喜ばれたそうだ。酒呑みの友人を持つとお互い命をすり減らしているように感じてしまう時があるが、酒をお茶に切り替えるような器用さの持ち合わせはないから、運を天に任せるしかないだろう。